

2023～ 実践事例検討とスーパービジョン	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	田中 尚・竹之内 章代	

## ■授業のテーマ

福祉実践現場での事例の検討を行いながら、実践活動の構造、その中で求められるソーシャルワークの価値、知識、介入方法と技術の明確化を図り、教育的、支持的、管理的な視点からのスーパービジョンを行う。

## ■授業の目的

社会福祉の実践事例検討を学ぶことにより、事例の理解を深め、ソーシャルワーカーとしての理論に基づいた実践力を向上させる。加えて、スーパービジョンを実施することにより、受講者の「専門職としての自己」とその実践への省察を深め、高度な実践力の定着を図る。

## ■授業の到達目標

1. 社会福祉実践における実践事例検討を、ソーシャルワーク・モデルや理論の生成に至る方法の一部として位置づけ、それを応用し、新たな知見を見いだす試みを実践することができる。
2. スーパービジョンを受けることで、自らの実践力を高めるとともに、その根拠を説明することができる。

## ■授業の概要

本授業では、実践事例検討とスーパービジョンにより、社会福祉専門職としてのより高度な実践力の体得を目指す。ここでは社会福祉現場での事例を、専門的知識や専門的技術、さらにソーシャルワークの価値・倫理をベースに検討する。スクーリングでは、まず実践における事例検討とスーパービジョンの意義や目的を理解すること、さらに実践を支える専門的知識や技術、倫理について学ぶ。これらの基本的な視点を学んだ上で、さまざまな実践分野からの実践事例を用いて、受講者とともに検討を行う。検討の中から導き出された実践や研究的な視点を、グループスーパービジョンなどによって気づきを深め、より高度な実践力を獲得させることを目指す。

## ■在宅学修

### (1) レポート課題

課題 1	<p>(1-1) 実践事例研究の理論と枠組みについてまとめなさい。</p> <p>(1-2) 実践事例提出可能な受講者については、実践事例を様式に添ってまとめなさい（対面講義当日2部持参し提出すること）。※様式はオンデマンド「資料ダウンロード」よりダウンロードしてください。</p> <p>(2-1) スーパービジョンの理論と方法についてまとめなさい。</p> <p>(2-2) 認定社会福祉士制度の必要書類の提出。対面スクーリング参加者は必要ありません。</p> <p>◆提出物と締め切りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員提出 (1-1) と (2-1) 提出締切：対面講義の前日</li> <li>・実践事例提出可能な方 (1-2) 提出締切：対面講義当日（2部持参）</li> <li>・認定社会福祉士制度適用希望の方 (2-2) 提出締切：教員の指示に従ってください</li> </ul>
課題 2 (事後課題)	この授業を通して気づいた、より高度な専門職としての自分をどのように考えるのか、その上での自身の課題と、その対応方法をまとめなさい。

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題（予習・復習）がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

## (2) アドバイス

### 課題1 アドバイス

テキストなどを用いて、実践事例検討とスーパービジョンの枠組みをしっかりと理解したうえで、スクーリングを受けられるよう準備をしましょう。提出されたレポートは授業の中で添削指導します。  
(認定社会福祉士制度の定めるスーパービジョンを希望する履修者)

スーパーバイザーとしてグループスーパービジョンなどを受講するにあたり、作成した自己チェックシートと毎回の個人記録を照合し、より高度な社会福祉専門職としての専門性が身についたか、確認しておきましょう。

### 課題2 アドバイス

ソーシャルワーク専門職としての自己を確立していく上で、自身の実践についての理解を深めるとともに、個人としての自己理解を深めていきましょう。

## (3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	実践研究の基本的な考え方	実践、実践研究、反省的実践	実践研究とは何か、実践を通して研究とはどのようなことであるのかについて考える。
2	実践現場における実践研究の基本的な考え方	現場実践、実践研究、実践の質の向上	実践現場とはどのような場であり、そこで何をどのように研究するかについて考える。
3	事例報告の方法の基本的な考え方	実践事例報告の意味、事例報告の方法・様式	実践事例をどのように報告するのか、また、そのための方法・様式のあり方などを学ぶ。
4	事例検討の方法と基本的な考え方	実践事例の検討、検討の方法と基本姿勢・態度	実践事例をそのように報告し、検討するのかについて、その方法を学ぶ。
5	スーパービジョンの基本的な概念	スーパービジョンとその定義、意義、歴史	スーパービジョンの基本的な理解として、その定義、必要性、歴史などについて学ぶ。
6	スーパービジョン関係	スーパーバイザー、スーパーバイジー、関係	スーパービジョンにおけるバイザー・バイジー関係の重要性、その意味について多角的に学ぶ。
7	スーパービジョンの機能：管理的機能	スーパービジョンの管理的機能	スーパービジョンにおける管理的機能の内容とその意義について学ぶ。
8	スーパービジョンの機能：教育的機能	スーパービジョンの教育的機能	スーパービジョンにおける教育的機能の内容とその意義について学ぶ。
9	スーパービジョンの機能：支持的機能	スーパービジョンの支持的機能	スーパービジョンにおける支持的機能の内容とその意義について学ぶ。
10	スーパービジョンの方法	契約、形態、方法、効果評価	スーパービジョンの方法について、その準備、契約のあり方、方法などについて学ぶ。
11	スーパービジョンの実際：マイクロレベルのSV	マイクロレベルの実践とスーパービジョン	マイクロレベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
12	スーパービジョンの実際：メゾレベルのSV	メゾレベルの実践とスーパービジョン	メゾ（地域・組織）レベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
13	スーパービジョンの実際：マクロレベルのSV	マクロレベルの実践とスーパービジョン	マクロレベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
14	スーパービジョンにおける留意点	スーパービジョンの効果、実施上の課題	スーパービジョンの効果と評価について多角的に把握する視点について学ぶ。
15	スーパービジョンの実施体制	スーパービジョンを行う環境、体制、基本要件	スーパービジョンを実施するうえでの環境要件、体制などについて学ぶ。

## ■スクーリング

### (1) スクーリング事前課題（学修時間目安：10時間以上）

1. 初回スクーリングの事前課題：テキストを読み、実践事例研究の理論と枠組みを把握しておく（5時間程度）。
2. 5回目スクーリングの事前課題：テキストを読み、スーパービジョンの理論と方法について理解しておく（5時間程度）。

3. 該当者のみの事前課題（レポート課題 課題1の(2-2)に該当）：認定社会福祉士制度スーパービジョン実施要項を読み、自己チェックシート、契約書、誓約書などスーパービジョンを受けるにあたって必要な書類を作成しておく（2時間程度）。→認定社会福祉士制度の定めるスーパービジョンを受ける受講生のみ提出（対面スクーリング参加者は提出の必要はありません）

## (2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	事例検討とは何か（事例検討の定義や枠組みについて知る）	オンデマンド
2	事例検討における記録（事例策性に必要な記録について学ぶ）	オンデマンド
3	事例検討における倫理（事例作成についての倫理や研究倫理について学ぶ）	オンデマンド
4	事例検討の実際（実践事例の検討課題を抽出し、実際に検討するための準備を確認する）	オンデマンド
5	スーパービジョンの理論と枠組み（スーパービジョンの理論と方法について学び、スーパーバイザーとして必要な基礎知識を知る）	オンデマンド
6	スーパービジョンの実際（認定社会福祉士制度において提出が必要な様式の説明なども含む）	オンデマンド
7	グループスーパービジョンの準備（グループ構成、取り扱う事例、メンバーの波長合わせなどを行う）	オンデマンド
8	実践事例検討の実際①	対面
9	実践事例検討の実際②	対面
10	実践事例検討の実際③	対面
11	実践事例検討の実際④・総括（これまでの学びのまとめ）	対面
12	グループスーパービジョン①：スーパービジョンの基本理解	対面
13	グループスーパービジョン②：スーパービジョンの展開	対面
14	グループスーパービジョン③：スーパービジョンの実際	対面
15	グループスーパービジョン④：総括（これまでの学びのまとめ）	対面

認定社会福祉士制度の定めるスーパービジョンを希望する方のみ、スクーリングの他に以下の受講が必要となります。  
※履修者の状況によっては、変更の可能性があります。

	実施内容	実施方法
1	個人スーパービジョンの実施（準備および契約）	対面 or リモート
2	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークの開始）	対面 or リモート
3	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークのアセスメント）	対面 or リモート
4	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークの計画立案）	対面 or リモート
5	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークの実行・介入）	対面 or リモート
6	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークのモニタリング）	対面 or リモート
7	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークの終結）	対面 or リモート
8	個人スーパービジョンの実施（ソーシャルワークの事後評価） 個人スーパービジョンの評価  まとめ	対面 or リモート

## (3) スクーリング事後課題（学修時間目安：10時間）

1. 認定社会福祉士制度の様式第7号スーパーバイザー個人記録を用い、実践事例検討で見出した実践、新たな知見、また高度な実践家としての自らの課題が、スーパービジョンによってどれくらい定着したのか、振り返りを行う。
2. この授業を通して気づいたより高度な「専門職としての自己」の課題と、その解決方法をまとめなさい。

## ■評価の方法・基準

---

- ・スクーリングの参加度（25%）、プレゼンテーションや取り組む姿勢（25%）
- ・課題2レポート（50%）

## ■参考文献（\*印=大学から送付される必読図書）

---

- 1) 岩田正美他編（2006）『社会福祉研究法：現実世界に迫る14レッスン』有斐閣アルマ
- 2) 渡部律子（2007）『基礎から学ぶ気づきの事例検討会：スーパーバイザーがいなくても実践力は深められる』中央法規出版
- 3) 野口定久他編（2014）『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際：個別援助から地域包括ケアシステムの構築へ』中央法規出版
- 4) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修（2015）『ソーシャルワークスーパービジョン論』中央法規出版
- \* 5) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修（2023）『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』中央法規出版